委員および一般からの意見

①委員からの流域委員会の審議に関するご意見、ご指摘（2001/9/20～2001/11/27）

2001/10/1
メール

原田委員（淀川部会）

（第７回淀川部会配布資料についての意見を頂きました。淀川部会にて提出をお願いしている検討課題に付記されていました。）

１：選択取水について

高山ダムの放流水温が４月、５月（とくに５月）に低いのは、もしこの水温の水にアユがさらされるなら、影響が出てもおかしくないものと考える。しかし一方で、高山ダムからの放水はすぐに支流と合流し、その結果温度は変化すると考えられる。また流下するにしたがい当然、温度は上昇するだろう。そのため、下流での水温を、適当な距離間隔ごとに計測した資料が、最低、必要であろうと思う（もちろん、これだけで十分とも限らない）。

２：漁獲高の変遷

アユの漁獲高について、農林統計からのものであろうと思うが、あまり信頼できないのではないかと想像する。遊漁者の漁獲量は、アンケート調査をおこなったり、びくのぞきを行って推定することが可能であるが、それでもなかなか信頼できる推定値を得ることは困難である。そもそもこのような調査を行った例は、全国でも数えるほどしかなく、長期にわたって継続しているところは皆無であると思われる。組合員の漁獲量も、海の魚とちがい、おそらく自家消費がほとんどで、出荷されるにしてもきまった市場を通じて出荷されるわけではないのが普通の状況では把握は困難である。傾向程度は表していると信じたいが、それすら疑問である可能性もある。アユ以外については、さらに疑問である。このような漁獲の情報が河川管理を考える上で重要であるという合意がえられるならば、よりしっかりしたモニタリングの態勢を整えることが必要だと考える。とくにアユについては、現状では困難ではあるが、放流魚と天然遡上魚を区別した資料が重要と思われる。

３：河川公園アンケート

「利用者」アンケートだと、そもそも現状の河川公園になんらかの魅力を感じて足を運んだ人の声であり、バイアスが生じるのではないかと想像する。

②一般からの流域委員会へのご意見、ご指摘（2001/9/20～2001/11/27）

№	発言者 所属等	傍聴 希望	受 取 日	内　　容
1	環境にやさしい街づくり推進会 管野　敬氏	○ 第５猪	9/10 (10/11)	（猪名川部会長（米山委員）あてに質問書が届きました。） →別紙１をご参照下さい。 →回答については、第 5 回猪名川部会(10/9)にて検討を行い、10/11 に回答書をお送りしました。→別紙２をご参照下さい。
2	エコ・カーライフ創出塾 谷口　隆捷	×	10/9	＜緊急提言＞ 既報（13.10.5 京都新聞）の通り、近畿地方整備局が「蹴上インクライン」再稼働を含む、疎水舟運復活（イベント）を検討している、とのこと。これこそ、淀川水系にとっての今世紀最大のイベントではないか。何も「水フォーラム」（フォーラムばやりで大した成果は関係者以外ないが）を待たずに、即刻取り組み、多くの一般参加者（老人から子供まで）を混えてチエと汗を結集させ実現してゆく中から、真に市民（住民）に役立つ施策が自ずと生まれてくるものと思われる。そしてできれば、大きな観点からの事業（思考）とみなし、必要なら多くの雇用も創出し、真の公共（プロジェクト）投資として、世界に提示すべきときだと考える。（抽象的レポートを観念的にいくら積み重ねてもそれこそムダだと考える。）
3	京都クマタカ研究会 中村　桂子氏	×	10/10	第４回委員会、ある委員の発言について 　クマタカに限らずあらゆる生き物の生息を決定づけているものは、そこで暮らせる否か、すなわち食べ物があり、子育てできる環境が整っているかどうかではないかと思われます。 　したがって、クマタカが暮らせる環境が整っているところには、既にクマタカが縄張りをもって暮らしており、ひとつ（１ペア）の生息場所（生息環境）が失われれば、１ペアが暮らせなくなるのであり、それは個体数の減少であります。羽根があるからといって簡単に他の場所へ移ることなどできないのです。簡単に言えば、自分の縄張りがダメになれば、他のペアの縄張りを奪い取るしかありません。実際は短期間に１ペアの行動圏が完全になくなるような環境変化というのは少ないので、ジワジワと隣接個体と攻防を繰り返し、力の強いペアが他のペアを追い出したりして生息密度が低下するものと思われます。 　淀川水系や琵琶湖に注がれる主要河川の山間部の流域には、ほぼ全てにクマタカが生息しています。しかし、どの河川にも大規模なダムが建設されたり、流域の森林の人工林化、森林の活用の変化などにより、水系および水系を取り巻く環境が著しく変化しています。それに伴いクマタカの正常な暮らしができなくなってきています。 餌動物の減少や、獲物を狩ることのできる環境が減少し、子育てをしないことが多くなってきています（繁殖成功率が低下しています）。 　しかし、クマタカは新天地を求めて飛んでいくことはありません。 　こうした状況が長期間続くと世代交代ができず、これらの地域個体群の生息密度が低下、すなわち生息個体数が減少することになるでしょう。 　長年にわたって築かれた淀川水系の生態系には、クマタカもその一員であり、言いかえればクマタカなどの猛禽類は水系の健全さを示す指標のひとつであると考えられます。水系の貴重性については、こうした視点で評価すべきと考えます。

№	発言者 所属等	傍聴 希望	受 取 日	内　　容
4	坂本氏	×	10/22	情報提供のための「メールマガジン」、情報、意志収集のための「掲示板」等の設置予定は無いのですか。
5	奈良市情報公開をすすめる会　福井　隆夫氏	×	10/23	私達木津川流域一帯の市民は木津川の水質に重大関心を持っています。そこで今後継続して研究して頂く為独立の部会を設けるか、分科会にするかをご検討願います。
6	大阪自然環境保全協会岡秀郎氏	×	11/15	大阪自然環境保全協会事務局長の岡秀郎です。 　私は第３回淀川部会で発言し、淀川河川公園基本計画・事業計画（事業費も含めて）の提出を要請しましたが、いまだに提出されていません。どういうことなのでしょうか。 　一般の意見を受け入れるという姿勢を謳っておきながら、対応ができていない。もっと真摯に対応して頂きたい。 (11/21) →第３回猪名川部会（現地視察）の資料閲覧のために、岡氏が庶務におみえになったので、その際に下記の事項をお伝えしました。 ・第３回淀川部会で河川管理者が「淀川河川公園の基本構想は現在見直し中であり、フォローアップ委員会が開催されている。その経過については随時流域委員会に情報公開したい」と発言していること ・第８回淀川部会では、フォローアップ委員会の提言が資料として配付されたこと